

株主通信

第136期第1四半期報告

平成15年4月1日～平成15年6月30日

The "K"line
The "K"line Way
The "K"line Way
The "K"line Way

1st Quarter Business Report

K "K"LINE
川崎汽船株式会社 R

証券コード：9107



株主の皆様には、まずまずご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、ご既承のごとく今年平成15年度より上場会社の四半期業績開示制度が始まりました。当社ではこれ

を踏まえ、従来からの事業報告書及び中間報告書に加えて、第1及び第3四半期の業績をご報告申し上げますこととし、初回として本第136期第1四半期(平成15年4月～平成15年6月)株主通信をお届けしますので、ご高覧願ひ上げます。

業績数値や事業概況につきましては次頁以降に記載しましたが、イラク戦争の早期終結もあり世界経済が堅調に推移し、欧米アジア向け貿易物流は好調さを維持しましたので、当社グループは経営計画KV-Planの方針に基づき、積極的な営業活動を展開し業容拡大を図るとともに、一層のコスト削減に努めた結果、コンテナ船運賃修復等も寄与し、連結及び個別の売上高・利益とも当初予想を上回る成果を得ることができました。

当平成16年3月期の上半期及び通期の業績につきましては、さらなる世界経済の回復が期待され、当初予想を上回る目処がたったコスト削減と相まって、売上高・利益とも後に記載のとおり当初予想を上方に修正しました。

株主の皆様への中間配当は、先の発表どおり1株当たり3円とさせていただき予定です。また、年間配当につきましては1株当たり6円の予定です。今後の業績の推移等を総合的に勘案の上決定させていただきたく存じます。

グローバリズムの進展は、今後とも止まることの無い大きな流れであろうと確信します。

当社グループは、拡大する物流を支える世界有数の外航海運事業及び陸空にわたる関連ロジスティクス事業集団として、世界に広がるお客様に対して効率的で信頼できるサービスを提供するべく、シンガポール、ロンドン、米国をはじめとする海外拠点を擁し、それぞれの地域に密着した営業を積極的に展開する所存です。

今後も、KV-Planで掲げた基本課題に積極的に取り組むとともに、企業体質をさらに強化し、ご期待にお応えできるようグループ企業役員・社員一丸となって努力してまいりますので、株主の皆様には、なにとぞ変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

取締役社長

崎 長 保 英

営業の概況

当第1四半期の世界経済はイラク戦争の早期終結、株価の持ち直し、米国の利下げなどで米国景気の悪化見通しも後退し、底固い個人消費に支えられ堅調に推移しました。わが国経済は、依然として底ばい状態にありますが、一部で設備投資回復の動きも見られ、欧米向け輸出は堅調に推移し、アジア向け輸出も好調さを維持しました。

このような状況下、当社グループは経営計画 KV-Plan の方針に基づき、引き続き積極的な営業活動を展開し、業容拡大を図るとともにコスト削減に努めました。その結果、当第1四半期の連結売上高は1,744億71百万円、連結営業利益は121億24百万円、連結経常利益は115億19百万円、連結当期純利益は58億76百万円となりました。

【海運業】

コンテナ船部門

中国出し貨物を中心とした好調な荷動きのもと、北米・欧州・アジアの各航路は、前年同期比積高を大幅に伸ばしました。第1四半期中に欧州・北米・大西洋各航路においては懸案の運賃率の修復が実現しました。4月下旬よりアジア/地中海航路でサービスを増強する一方、運航コストのさらなる削減、不採算航路における航路合理化を推し進めた結果、売上高、利益ともに前年同期を大幅に上回りました。



コンテナ船 “GOLDEN GATE BRIDGE”

不定期専用船部門

撒積船については、中国向け荷動きの拡大を背景に、ケープサイズ、パナマックスなどの大型船から中・小型船までの全ての船型で市場が活況を呈し、営業規模を大幅に伸ばしました。

自動車船については、米国の販売台数減により、極東出し・欧州出しともに北米向け輸送台数は減少したものの、日本から欧州や豪州向け輸送は堅調に推移しました。



自動車運搬専用船 “MALACCA HIGHWAY”

以上の結果、当部門全体の売上高は前年同期を上回り、効率配船による運航コストの削減も相まって、引き続き安定した利益をあげることができました。

エネルギー資源輸送部門

液化天然ガス運搬船については、既契約諸プロジェクトの順調な進捗により安定収益を確保しました。

電力会社向け石炭輸送については、継続的な新造船投入効果もあり、輸送量を大幅に伸ばしました。

油槽船については、一時的な運賃市況の調整局面もありましたが、概ね安定的に推移しました。

当部門全体では、電力炭の業容拡大並びに安定したタンカー市況もあって、売上高は前年同期を上回り、引き続き安定した利益を確保しました。



電力炭輸送専用船 “CORONA INFINITY”

内航・フェリー部門

内航・フェリー部門は、概ね前年同期並の利益をあげることができました。

この結果、海運業部門全体では、売上高は1,497億16百万円、営業利益は103億21百万円となりました。



川崎近海汽船旅客フェリー “シルバーキーン”

【運輸に付帯するサービス業】

世界の荷動きが海上・航空ともに比較的堅調に推移し、当社グループ全体の貨物取り扱いが増加したことにより、港湾関連事業会社を中心に業績を伸ばし、全体の売上高は216億14百万円、営業利益は16億76百万円となりました。

【その他の事業】

道路貨物運送業ほか、前記以外の事業においては、売上高は全体として31億41百万円、営業利益は2億5百万円となりました。

平成16年3月期の連結業績予想

コンテナ船部門においては、イラク戦争の早期終結を受け、米国の景気回復が期待され、中国から欧米向け荷動きも引き続き堅調に推移するものと見込まれます。運賃率の安定化と航路再編等によるコスト削減の推進により、業績の改善を目指します。

不定期専用船部門では、撒積船における運賃市況が中国向け荷動きの活況に支えられ、高水準で推移すると予想されます。

自動車船においては、米国や欧州向け及び三国間の堅調な荷動きに機敏に対応し、効率の良い運航とさらなる経費の削減を追求して安定的な収益確保を見込んでいます。

エネルギー資源輸送部門では、新造船の投入を含めて、引き続き積極的に業容の拡大に努めます。

内航・フェリー部門では、積極的な営業活動を展開し、効率的な配船とサービス向上に努めます。

以上、コンテナ船以外の海運業分野においても全体として業績の改善を見込んでいます。

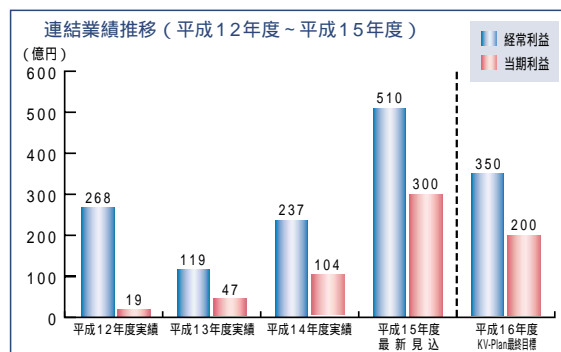
運輸に付帯するサービス業部門では、コンテナ船事業及び国内外の物流事業各社に蓄積されたノウハウと営業資産を有機的に結合して、顧客ニーズに対応する物流事業にグループをあげて取り組み、強化を図ります。

以上の施策により中間期の連結業績見通しは、売上高 3,550 億円、営業利益 300 億円、経常利益 280 億円、当期利益 170 億円、単体業績見通し

は、売上高 2,860 億円、単体営業利益 240 億円、経常利益 235 億円、当期利益 115 億円を見込んでいます。また、通期の連結業績見通しは、売上高 7,000 億円、営業利益 550 億円、経常利益 510 億円、当期利益 300 億円、単体業績見通しは、売上高 5,600 億円、営業利益 430 億円、経常利益 410 億円、当期利益 190 億円を見込んでいます。この業績見込みは、KV-Plan の最終目標数値(下図ご参照)を上回るものとなります。

なお、円/ドル為替レートは上期・通期とも 1 ドル = 120 円、燃料油価格はトン当たり上期 170 ドル、下期 160 ドルを想定しています。

また、当期の配当金につきましては、中間配当金は本年 5 月 15 日に発表のとおり、1 株当たり 3 円とさせていただく予定です。年間配当金は 1 株当たり 6 円の予定です。当社の財務状況及び今後の見通し等を総合的に勘案のうえ、決定させていただく所存です。



当社 ISO14001 の川崎近海汽船(株)及び 日東物流(株)への拡大認証

当社は、平成 13 年 5 月に発表した環境憲章の中で、海運を中核としたグローバルな総合物流企業グループとして環境保全を恒久的な経営課題に掲げ、着実に施策を実施してきました。平成 14 年 2 月に、当社並びに 3 船舶管理会社(ケイライン シップマネージメント㈱、太洋日本汽船㈱、㈱エスコバル・ジャパン)及び㈱ケイラインジャパンが ISO 14001 の認証を受けていますが、平成 15 年 4 月、新たに川崎近海汽船㈱及び日東物流㈱(ターミナル部門)の 2 社が加わりました。

当社は、これまで主として陸上事務所管理と船舶管理の中で環境保全活動を行ってきましたが、物流企業グループとしては海陸輸送全般の問題として、環境保全に取り組んでいく必要があります。



授与式後の記念撮影



登録証書

また、国内の陸上輸送では環境負荷の大きい輸送手段から、環境に優しい内航海上輸送への転換(モーダルシフト)が進められています。そのため、グループ企業が個々に活動を行うのではなく、当社グループ共通の目標に従って環境保全への取り組みを強化し、環境マネジメントシステムをグループ内企業に拡げていく予定です。

インドネシア陸送合弁会社設立

当社のインドネシア現地法人である“K”Line (Indonesia) は、平成 15 年 6 月に現地最大手の完成車輸送会社である Mobaru Diamond 社との合弁会社 PT “K”Line Mobaru Diamond Indonesia を設立し、共同で当該輸送事業を開始しました。現状のインドネシアでの完成車輸送は自走方式が一般的であり、キャリアカーによる輸送は一部の高級車などを中心に行われていますが、今後は AFTA(ASEAN FREE TRADE AREA)での域内相互供給体制が進展し、完成車の物流量の増大が予想される中で、キャリアカーを用いたダメージの少ない大量輸送に転換していくことが見込まれています。



キャリアカー基地(ジャカルタ)

当社グループでは、このような物流ニーズに積極的に対応し、同国での物流インフラの整備にも貢献しています。また一方では完成車輸送とともにコンテナ陸送分野での展開も視野に入れており、サービス提供能力の一層の向上を目指します。

この新合弁会社では、パートナーである Mobaru Diamond 社の現地業界最大手としての経験を生かし、効率的な車両運行を目指すとともに、当社グループの海陸運送と連携した高付加価値な陸上輸送を視野に入れ、互いの強みを相乗的に発揮しうる理想的なパートナーシップとなりました。

大型撒積船「CAPE GLORY」竣工

17万トン型撒積船「CAPE GLORY(ケープ・グローリー)」(株) 名村造船所建造) が、平成 15 年 6 月 12 日竣工しました。

同船は、環境対策や撒積船の安全対策に以下の点で特に配慮した設計となっています。

1. スターントネルフィン^(注1)や高効率プロペラの省エネ対策機器を採用。
2. 船尾管^(注2)シールにエアシール^(注3)を採用し、油の船外流出防止策を強化。
3. バラスト水^(注4)に混入した海洋生物や病原菌の伝播を防ぐため、洋上でのバラスト水交換を容易に行えるよう、バラスト水排出専用管を全タンクに設置。
4. 安全強化のため、貨物船倉船側構造を強化し、さらに高級塗料による防錆を施工。
5. スプリンクラー設置等、当社独自の機関室防火対策を実施。
6. 撒積船の安全対策として来年 7 月以降義務付けられる

「ホールド浸水警報装置」と「船首区画の遠隔排水装置」を先取りして装備。

(注 1) スターントネルフィン：船舶の推進性能を向上させるための船尾付加物で、プロペラに流入する乱れた流れを整流することにより渦抵抗が減少し、推進性能が向上する。

(注 2) 船尾管：プロペラ軸が船体を貫通する部分。

(注 3) エアシール：従来の油の圧力で外部からの海水が船内に浸入しない方式では、この潤滑油が船外に漏洩する恐れがあるため、空気圧で海水の船内への浸入を防ぐ方式。

(注 4) バラスト水：船が貨物を積んでいない時や貨物の重量が軽い時に、船内の海水タンクに搭載される海水のこと。船体姿勢や船体強度を保持し安定を確保するため、必要に応じてタンク内に取り込み、排出される。



“CAPE GLORY”

本船要目

- ◎ 総トン数.....89,529T
- ◎ 載貨重量トン数.....177,173MT
- ◎ 全長×型幅×型深×満載喫水
288.97m × 45.00m × 24.40m × 17.955m

連結・個別財務諸表（要約版）

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科 目	当第1四半期末 平成15年6月30日現在	前連結会計年度 平成15年3月31日現在	比較増減
（資産の部）			
流動資産	147,070	136,510	10,559
固定資産	394,596	379,273	15,322
有形固定資産	296,950	285,879	11,070
無形固定資産	5,724	5,810	86
投資その他の資産	91,921	87,582	4,338
繰延資産	36	41	5
資産合計	541,702	515,824	25,877
（負債の部）			
流動負債	203,796	166,760	37,035
固定負債	241,974	259,779	17,805
負債合計	445,771	426,540	19,230
（少数株主持分）	7,368	7,244	123
（資本の部）			
資本金	29,689	29,689	-
資本剰余金	14,534	14,534	-
利益剰余金	42,442	39,694	2,748
土地再評価差額金	4,848	4,848	-
その他有価証券評価差額金	1,204	2,529	3,734
為替換算調整勘定	3,765	3,912	146
自己株式	391	285	105
資本合計	88,563	82,039	6,523
負債、少数株主持分及び資本合計	541,702	515,824	25,877

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科 目	（参考）		比較増減
	当第1四半期 自平成15年4月1日 至平成15年6月30日	前第1四半期 自平成14年4月1日 至平成14年6月30日	
売上高	174,471	150,125	24,346
売上原価	149,415	132,105	17,309
販売費及び一般管理費	12,932	12,803	129
営業利益	12,124	5,216	6,908
営業外収益	1,004	619	384
営業外費用	1,609	3,049	1,440
経常利益	11,519	2,786	8,733
特別利益	435	-	-
特別損失	1,460	-	-
税金等調整前当期純利益	10,494	-	-
法人税等	4,444	-	-
少数株主利益	174	-	-
当期純利益	5,876	-	-

（注）参考情報として前第1四半期の数値を経常利益まで記載しています。
前第1四半期は監査法人によるレビューは受けていません。

個別貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科 目	当第1四半期末	前 期 末	比較増減
	平成15年6月30日現在	平成15年3月31日現在	
（資産の部）			
流動資産	106,234	96,500	9,733
固定資産	194,438	172,598	21,840
有形固定資産	77,475	77,177	297
無形固定資産	2,851	2,969	118
投資その他の資産	114,111	92,450	21,661
繰延資産	36	41	5
資産合計	300,708	269,140	31,568
（負債の部）			
流動負債	139,027	109,845	29,181
固定負債	89,749	93,422	3,672
負債合計	228,777	203,268	25,509
（資本の部）			
資本金	29,689	29,689	-
資本剰余金	14,534	14,534	-
利益剰余金	23,764	21,295	2,469
土地再評価差額金	2,996	2,996	-
その他有価証券評価差額金	1,131	2,461	3,593
自己株式	185	182	3
資本合計	71,931	65,872	6,059
負債及び資本合計	300,708	269,140	31,568

個別損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科 目	（ 参 考 ）		比較増減
	当第1四半期	前第1四半期	
	自平成15年4月1日	自平成14年4月1日	
	至平成15年6月30日	至平成14年6月30日	
営業収益	141,303	118,741	22,561
営業費用	131,398	115,354	16,043
営業利益	9,904	3,386	6,518
営業外収益	771	471	299
営業外費用	780	2,217	1,437
経常利益	9,895	1,640	8,254
特別利益	2	-	-
特別損失	946	-	-
税引前当期純利益	8,952	-	-
法人税等	3,449	-	-
当期純利益	5,503	-	-

（注）参考情報として前第1四半期の数値を経常利益まで記載しています。
前第1四半期は監査法人によるレビューは受けていません。

海と共に

私たちの仕事は、自然の恵みである海を舞台に
人と物を運ぶことです。
環境に優しく、安全で、経済性の高い海上輸送を
創造します。



"K"LINE KINKAI

川崎近海汽船株式会社

KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA, LTD.

東京都千代田区内幸町 二丁目1番1号

<http://www.kawakin.co.jp>

"K"LINE KINKAI

"K" LINE TRAVEL, LTD.

ケイライントラベルは出張や個人旅行、各種ツアーをお取り扱いする
プロフェッショナル企業として高品質のサービスを提供しています。



Business Trip Consulting

ビジネストラベル
出張関連業務を
トータルにサポート



Tour Planning

特色あるツアー企画

- キルトツアー
- 中国ビジネスツアー
- 広告業界関連ツアー
- ホームステイ



System Solution

ビジネストラベル
システムソリューション



私どもは企業のご出張手配はもちろんのこと、特色ある各種ツアーを企画しております。また、国内出張の手配システムや出張旅費精算システムの構築など、最新のテクノロジーを活用したビジネストラベルのシステムソリューションをご提案しています。どうぞお気軽にお問い合わせ下さい。

ケイライントラベル株式会社

本社・東京旅客部 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル1F TEL:03-3506-3466
 阪神営業所 〒650-0024 兵庫県神戸市中央区海岸通八番 神港ビル TEL:078-391-1701
 大阪駐在事務所 〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-2-1 大同生命本社ビルB1F TEL:06-6443-8777

ホームページ <http://www.klineair.co.jp/travel> <http://www.quilters-shop.com>



The "K"line
 The "K"line Way
 The "K"line Way
 The "K"line Way



〒105-8421 東京都港区西新橋一丁目2番9号
 (日比谷セントラルビル)

TEL : 03-3595-5061

URL : <http://www.kline.co.jp>

(注) この株主通信に記載されている将来の業績等に関する見通しについては、リスクや不確定な要因を含んでおり、実際の業績はさまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。



本誌は100%再生紙、大豆油インクを使用しています。
 当社は未来の子供たちのために、資源の再利用と
 環境保全に取り組んでいます。